

ひまわり



9

2021
SEP

もくじ

- 2 情勢 ~津久井やまゆり園事件から5年~
- 3 ちょっと聞いてよ! 第34回
ハートフェスタ2021開催中止のお知らせ
- 4・5 亀岡福祉会の夏(各事業所の様子)
- 6 私たちと一緒に働いてみませんか?・時・ご寄付

「お仕事がんばってます!」(かめおか作業所)

社会福祉法人 亀岡福祉会

○法人本部: 〒621-0033 京都府亀岡市蔭田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

日下部 育子

IKUKO KUSAKABE

第三かめおか作業所
所長津久井やまゆり園事件
から5年

この事件が内包していること

今から5年前の7月、人々を震撼させたことが起きた。45人もの入所者や職員が次々と刃物でおそわれ、19人の障害のある人が犠牲となった津久井やまゆり園事件である。この裁判は被害の大きさや証拠量の膨大さから3年近くを要し、令和2年3月に死刑判決、被告人が控訴を取り下げたことにより結審した。多くの方が犠牲となったことから戦後最悪の事件とも言われ、障害のある人とともに働き、暮らすことにたずさわっている私にとっても、こゝろや文字に起こすことすら気がめいる。けれども5年を経て、あらためて様々な文献や資料を読み返し、この事件が内包していることについて学ぶこととした。そのなかの特徴的な点についてふれてみたい。

1つ目に、どうしてこのような行為、考えに及んだかについて、被告の口から語られなかったことがあげられる。裁判では被告人が殺傷行為を認めため、刑事責任能力の有無、程度が最大の争点となったという。被告は「障害者は人ではない」と言い放ち、頑なに考えを変えようとしなかったようだ。耳を疑う発言であったにもかかわらず、最後までなぜこのような考えに至ったかについては明らかにしなかった。

2つ目に亡くなった19人の尊い命については、匿名のまま裁判がすすめら

れたことがあげられる。世間から少なからず批判の声もあつたようだが、遺族や家族がなぜ匿名にせざるを得なかったのか、そこには未だ社会に根深く存在する、障害のある人への差別や偏見が起因している。名前を公表することでマスクミが殺到する、大切な我が子が障害をかかえ入所している事実を公表することは本人や家族だけでなく、ときには兄弟姉妹や親戚にまでうわさ話が広がる、これまで多くの差別や偏見を受けてきた家族にとって本当に世の中の人々が事実を理解してくれるかどうか不安だったのだという。

その人自身に寄り添う大切さ

「障害者は人ではない」という被告の言葉、そのことを考えたとき《社会にとつて》という言葉がびたりと当てはまる。今日私たちは、つねにコスパ(コストパフォーマンス)より効率性や生産性、利便性を求められる。そのことはときに余裕をなくし疲弊した環境をうんでいく。人の命さえ同じものさしで測ろうとすることに気づかない。「優性思想」という考えは、こんな背景から無意識に私たちの日常に侵食してきたのかもしれない。そう思ったとき1つの文章に深く共感した。『命との向きあい方は価値を問うことでなく、人が生きていることそのものを尊重する姿勢である』というものだ。(※引

用…すべての人の社会「やまゆり園」事件から受け取るもの 海老原宏美氏 / 自立生活センター・東大和理事長) 私は日々障害のある人の様々な人生ドラマを間近で経験させていただいている。利用者、ご家族とともに笑い、苦しむ、涙しと、忘れられないエピソードがたくさんある。私はそのことを通じて社会のなかで生きることを考え、悩み、その人自身に寄り添う大切さにたどり着いた。知らないこと、まわりで見聞きしたことはときに誤った、偏った考え方につながる。身をもって相手を知る、謙虚に相手を慮る姿勢を問いつけることが肝心だ。

命との向き合い方

私たちは今、コロナ禍において同じような過ちを重ねかねない危機に遭遇している。この間の逼迫した感染状況は医療崩壊や災害とまで言われ、中等症の患者は自宅で療養せざるを得ないという不条理。いつしか「やむを得ない」という結論に誰もが納得しがちだ。しかし立ち止まって考えよう。命は優劣や選別、価値を問うものではないのだ。命は一つひとつが尊重され、自分らしく生きることが認められるものでなければならぬ。そのことを強く胸に刻みたいと思う。津久井やまゆり園事件は、まだ終わっていない。

「ちょっと聞いてよ！」

第34回
にしむら みほ
西村 美穂さん
(第三かめおか作業所)



今回は、和菓子グループで働いている西村さんに話を聞きました。
西村さんは絵を描くのが上手で、メッセージカードにメンバーや職員の似顔絵を描いて企画商品の中に入れていきます。絵を見れば誰の顔かわかるのがすごいです。

「どんな仕事をしていますか？」
あられに昆布や黒こしようなどを使って味をつけたり、お野菜チップスの袋入れをしたりしています。商品がもっともっと売れて知名度が上がれば良いなと思っています。

「休日にはどんなことをしていますか？」

寝てるか、SNSしたり、ペットのジャック・ラッセルという種類のワンちゃんを遊んだりしています。

「好きなものは何ですか？」

アニメが好きで特にプリキュアが大好きです。プリキュアのことなら何でも聞いてください！

「食べ物なら何が好きですか？」

お肉が好きです。

「何かしてみたいことや夢はありますか？」

事件とか何もなくて、普通に暮らせたらいいです。

常々大事にしていることは《現状維持》とのことで、最後の質問は本当に西村さんらしい回答だと思いました。



ええやん!この街!ハートフェスタ2021 開催中止のお知らせ



「障害のある人もない人もともに楽しい一日を過ごし、出会いやつながらりを広げる場」として開催してきましたハートフェスタが、昨年に続き今年度も、コロナ感染の広がりが収まらず、中止せざるを得なくなりました。楽しみにしていただけいた方もおられたとは思いますが、来年度は是非とも開催したいと思っています。

亀岡福祉会では、「地域に向けて何かをしたい」と、「星に語りて」(きょうされん制作)の映画上映を、今年度内に行うことにしました。今年は、東日本大震災10年の節目の年でもあります。大震災の記憶を消してはいけないうの思いますが、こういう状況下ではありますが、上映に向けて準備を進めています。ご期待ください。